

学校教育目標	「豊かなかわりを通して ともに高め合い 主体的に取り組む子」 (知) 互いに学び合うことを通して、自ら進んで学び続ける力を育てます。 (徳) 挨拶を大切に、他への感謝の気持ちや他を思いやる態度を育てます。 (体) 自他の命を大切に、心身ともにたくましく生きる力を育てます。 (公) 地域と社会に進んでかかわろうとし、他者と協働する力を育てます。 (開) コミュニケーション力を高めて、社会の変化に対応できる力を育てます。				
	創立 39 周年	学校長 岡崎 恵子	副校長 本間 秀司	2 学期制	一般学級: 17 個別支援学級: 5
学校概要	児童生徒数: 557 人 主な関係校: 山内中学校、山内小学校、元石川小学校、美しが丘西小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<問題発見・解決能力> <コミュニケーション能力> <自分づくりに関する力>	山内中学校 山内小学校 元石川小学校 美しが丘西小学校	未来に向かって自分の良さを発揮し 他者とかかわりながら 主体的に行動できる子ども ①小中合同授業研究会 ②中学校ブロック横浜子ども会議 ③人権講演会(研修会) ④キャリアパスポートの効果的な活用 ⑤中学校生徒会説明会、中学部授業見学・活動体験 吹奏楽部出張演奏

中期取組目標	<p>○学校全職員で活力と魅力のある学校づくりを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科分担制の拡充とICT活用で、「子どもが考える」授業づくりを推進します。 ・学校、まち、地域の良さを取り入れ、子どもの実感を大切に学習づくりを目指します。 ・児童主体の取組の中で、学校保健委員会、体育朝会を通し児童の体力と健康意識の向上に取り組みます。 ・あいさつを大切に、様々なかわりやコミュニケーションを通して多様な考えを認め合える態度を育成します。
--------	---

重点取組分野	具体的取組				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">知</td> <td>確かな学力</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>研究研修部</td> </tr> </table>	知	確かな学力	担当	研究研修部	①各教科等の力をつけるために、児童が自分に合った学習内容や方法を選択できるように、ICTを活用した授業づくり、タブレット端末の持ち帰りを進める。②重点研究では算数科を中心に、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りながら、授業改善に取り組む。
知	確かな学力				
担当	研究研修部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">徳</td> <td>豊かな心</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童支援部</td> </tr> </table>	徳	豊かな心	担当	児童支援部	①ペア学年活動、児童会活動、登校班、行事等様々な交流を通して、他者への共感や思いやりを育み、自分のよさを実感できるようにする。②道徳、行事、代表委員会、人権週間、朝会などを通して、学校の諸問題や解決方法を考え、社会への参画意識や生活の主体者としての意識を高める。
徳	豊かな心				
担当	児童支援部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">体</td> <td>健やかな体</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>保健安全部・体育部</td> </tr> </table>	体	健やかな体	担当	保健安全部・体育部	①体育朝会や体力づくり週間を計画的に実施し、日常の中で体を動かすよさを味わえるようにする。②給食だけではなく、全教育活動を食育の場ととらえる。自分の体や健康に関心を持ち、生活の主体者としての意識を高められるよう、系統的な食育指導や保健指導を行う。
体	健やかな体				
担当	保健安全部・体育部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">公 開</td> <td>まちや地域の中 の自分づくり</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務部・研究研修部</td> </tr> </table>	公 開	まちや地域の中 の自分づくり	担当	教務部・研究研修部	①地域のよさを生かした教育活動を推進し、教育課程に位置付ける。農業、大学、駅、商店街など地域の材、保護者や外部の教育力を積極的に活用する。②地域散策、夕涼み会、どんと焼き、餅つき等、地域行事への積極的な参加を啓発し、地域への愛着をより感じられるようにする。
公 開	まちや地域の中 の自分づくり				
担当	教務部・研究研修部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">い じめ へ の 対 応</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童支援部・専任</td> </tr> </table>	い じめ へ の 対 応		担当	児童支援部・専任	①YPアセスメント、いじめアンケートや担任面談を実施し、いじめ早期発見、複数対応に努め、誰一人取り残さない体制を整える。YPプログラムを計画的に教育課程に位置付ける。②いじめ防止対策委員会を中心に、組織的に対応する。保護者との連携をとり、協力して解決を図る。
い じめ へ の 対 応					
担当	児童支援部・専任				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">人 材 育 成 ・ 組 織 運 営 (働 き 方)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務部</td> </tr> </table>	人 材 育 成 ・ 組 織 運 営 (働 き 方)		担当	教務部	①メンター研修を人材育成の中心に位置付け、教科指導、教科外指導、校務分掌におけるOJTを計画的に行う。②全教職員が学びのコーディネーターとして、カリキュラム・マネジメント力の向上を図る。③ICTを活用した校務の効率化や情報共有を図り、組織的な働き方改革を進める。
人 材 育 成 ・ 組 織 運 営 (働 き 方)					
担当	教務部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">特 別 支 援 教 育</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童支援部・国際教室</td> </tr> </table>	特 別 支 援 教 育		担当	児童支援部・国際教室	①教室のUD化やスタンダード、ICTの効果的な活用の取組を継続し、合理的配慮についての研修を行い、個に寄り添った支援を行う。②特別支援委員会を中心に組織的な支援を行い、カウンセラーやSSW・療育センター・区役所・児相等の関係機関との連携も充実させる。
特 別 支 援 教 育					
担当	児童支援部・国際教室				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">国 際 理 解 教 育</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童支援部・外国語部</td> </tr> </table>	国 際 理 解 教 育		担当	児童支援部・外国語部	①オーストラリア姉妹校とオンラインを含めた交流を外国語・外国語活動のカリキュラムと関連付け、計画的に実施することで、英語学習への興味関心を高める。②IUIとの交流活動を通して、様々な国の理解を深め、多様性や共生について児童の意識を高める。
国 際 理 解 教 育					
担当	児童支援部・外国語部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">幼 保 小 連 携 ・ 学 年 チ ーム 経 営</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>各学年・幼保小担当</td> </tr> </table>	幼 保 小 連 携 ・ 学 年 チ ーム 経 営		担当	各学年・幼保小担当	①幼保小連携として、幼稚園教諭との交流など、スタートカリキュラムの改善を通して幼保からのスムーズな接続を図る。②専科、教科交換を軸に、学年チームで指導を行い、より多くの大人がかかわるよさや教材研究の効率化を図り、児童指導、児童理解の向上につなげる。
幼 保 小 連 携 ・ 学 年 チ ーム 経 営					
担当	各学年・幼保小担当				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">学 校 運 営 協 議 会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務部</td> </tr> </table>	学 校 運 営 協 議 会		担当	教務部	①年4回の学校運営協議会を開き、授業参観や行事を通して学校の様子を共有し、地域とともによりよい学校運営を図る。②教職員や保護者、地域を含む関係者が学校運営協議会組織をより理解し、そのよさを共有できるように、学校だより、学校HPを通して積極的に発信する。
学 校 運 営 協 議 会					
担当	教務部				